

秋田雨雀・土方与志記念
青年劇場

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

「こんなにも
知らなかった
ということをはじめて知った」

被爆証言の絵に取り組んだ高校生たち

日時：2018年7月13日(金) 18時30分開演

(受付開始は、1時間前 / 開場は30分前)

会場：練馬区生涯学習センター ホール

チケット：一般 3,800円 / 25歳以下 2,000円

主催：青年劇場「あの夏の絵」練馬公演実行委員会 / 練馬・文化の会

お申込み・お問い合わせ：実行委員会事務局 179-0075 練馬区高松 2-2-13(我妻)

TEL: 03-3999-9130/FAX 03-6314-7784 E-mail: aduma_h@d1.dion.ne.jp

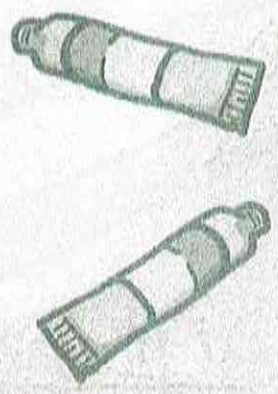
あの夏の絵

福山啓子 作・演出

被爆から70年。
3人の美術部員と先生、じいちゃん、ばあちゃんの
『あの夏』を巡る物語—。
客席を、さわやかな笑いと、深い感動の渦に巻きこんだ話題の作品！

物語
メグミ、ナナ、アツトは高校一年の美術部員。ある日、メグミは「原爆の被爆証言の絵」に取り組むことを決意する。顧問の岡田先生の提案で、被爆証言は3人で聞くことになったが…。
目の前で聞いた被爆証言は『体験』として3人の心に迫り、また、見たこともないものを絵に描くのは想像以上に大変な作業だった！『あの夏』の『記憶』と向き合うことで部員たちの関係が変わり始めたなか、急にナナが学校に来なくなり…。

被爆者が高齢となり、被爆体験の継承が益々重要になっている。私たちが毎年開催している「被爆者の声をうけつぐ映画祭」も、『映像作品を通じての継承』を目的とし、今年で12年目を重ねる。最近話題になった継承活動に、被爆者から体験を聞き取り絵に描くという広島の高校生たちの活躍がある。それを舞台にしたのが、青年劇場の『あの夏の絵』である。その台本の中に、高校生の描く作業を見て語り部の記憶も呼び覚まされたというエピソードがある。継承活動とは、体験者が語るだけではなく、意欲的な聞き手の存在があってより豊かになるものだと思える。「あの夏の絵」の練馬での上演は7月13日(金)である。被爆者の声をうけつぐ映画祭は、武蔵大学で14日(土)、15日(日)である。被爆国の政府が核武装を歓迎するというおぞましい事態から脱却する上でも、この三日間の催しを大きく成功させ、ヒバクシャ国際署名推進の飛躍台としたい。



被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員長
ヒバクシャ国際署名推進ねりま連絡会代表
有原 誠治

*被爆者のいちばん近くにいなから、被爆二世・三世の私たちは「継承」の方法に戸惑っていました。この作品は大きなヒントと勇気を与えてくれました。
(機関紙「被団協」山田みどり氏)

感想より
*昔の出来事を学ぶ意味がやっとわかったような気がします。とてもリアルティのあるお話でした。こんなに真剣に観たお芝居は初めてです。
(10代・女性)

*私には12歳になる息子がいます。彼にはどのように原爆のことを伝えようか、時々かんがえています。(中略)『あの夏の絵』を観て思ったのは、子どもにこそこの劇を観せたい、ということでした。もちろん小学生だけでなく、中学生、高校生にも広く観てもらいたい。観劇という体験を通じて、継承に向けた「経験の重ね合わせ」が多くの人に広がっていくことを願っています。(男性)

出演者
青木力弥
藤井美恵子
秋山亜紀子
林田悠佑
傍島ひとみ
前田みどり



日時
2018年7月13日(金)
18時30分開演
(開場は開演の30分前)

チケット料金
一般 3,800円
25歳以下 2,000円

会場
練馬区生涯学習センター(東京都練馬区豊玉北6-8-1)

主催：青年劇場「あの夏の絵」練馬公演実行委員会／練馬・文化の会
お申込み・お問合せ→ TEL 03-3999-9130 (我妻)
FAX 03-6314-7784

[美術]石井 強司 [照明]河崎 浩 [選曲]堀沢 広幸 [音響効果]石井 隆 [衣裳]宮岡 増枝 [演出助手]清原 達之
[舞台監督]青木 幹友 [製作]北 直樹 [表面デザイン]富田 真衣(広島市立基町高校卒業生。「原爆の絵」を描いたひとり)